



阿波三峰

# 朝念暮念

## 中津峰山如意輪寺

徳島市多家良町中津峰  
TEL088-645-0008 FAX645-0508

バス便、8/15 9/19:30アミ前

問い合わせい合わせ : 徳島市バス観光課 088-652-2133

### 親子の鐘の中津峰

### 四万八千日(ローソク祭り) 成功裡に

四万八千日のローソク祭り。前日祭の七月九日夕刻よりはじめた。竹の掛樋に水を張って、ピンポン玉状の特製のローソクに火を灯す。長い架け樋一杯に幻想的な炎がたなびき本堂、大師堂、護摩堂、諸堂を照らし出す。初めての行事だが、光の演出が思いのほかの効果を示す。勢い余って、十日の昏間にも点灯、夜のようにはいかないものの、それでも炎が転々とする様はそこに佛菩薩が降臨影向したまう様であった。結局一日中、掛樋いっぱいにお奉りされた炎がたえなかつた。来年はもうひと工夫して炎の祭典に育てていきたい。

一方、境内では、先号で案内したとおり、大塚製

薬工場より先にお送りいただいたオロナミンC三百本に加え、さらに当日朝、五百本お送りいただき、この行事に花を添えて頂きました。四万八千日当日と翌十一日の日曜日に全部御接待することができました。誌上心からお礼申し上げます。



### 台風の基礎知識

先月末より今月初めにかけたの長雨の一日、ちょうど台風七号が沖繩に近づきつつあった。

皆さん「おおい台風がきよるけん、徳島も荒れるんとちやうで」「大きいんとこついとちがうんでよ」「ほなつて大きいちゆうのは、なんでもこついでないで」等々の話である。曰く、大型は車でも機械でも大きく馬力が強いという。これは

日本語の常識だが気象用語は異なる。

まず、先の台風五号は沖繩に近づくまで熱帯性低気圧と呼んでいた。ところがいつの間にか台風と呼ぶ。同じものなのにどうして名前が変わるのか。これは混乱しやすい一例である。台風とは中心付近の最大風速が毎秒十七メートル以上の熱帯低気圧をいう。五号は沖繩近海まで十七メートルぎりぎりのところまでやってきて台風の域に達したのである。こついで熱帯低気圧は

概ね大陸の東側の海上で発生する。東南アジアで発生するものをタイフーンといい、台風は漢字をあてたものだ。インド洋上で発生し東北インド、バングラデシュを襲うものをサイクロン、メキシコ湾岸で発生しカリブ海、米国本土を襲うものをハリケーンという。たまに日本に向かってくるものうち東経百八十度の西側に超えて発生したものもハリケーンという。因みに温帯低気圧は発生場所が台風(熱帯低気圧)で主にフリーピン近海の太平洋上であるのに対し、これは揚子江流域付近に発生し、台風に比べ日本を覆うほど領域が大きい。季節を問わず、不連続線をともなうていつも日本を東に通過していく。そして、いくら発達しても台風とは言わない。

図、台風の大きさ

階級	風速15m/s以上の半径
ごく小さい	200km未満
小型:(小さい)	200km以上~300km未満
中型:(並の大きさ)	300km以上~500km未満
大型:(大きい)	500km以上~800km未満
超大型:(非常に大きい)	800km以上

一方、台風の「強さ」は中心付近の最大風速が毎秒(以下風速という)十七メートル以上二十五メートル未満の台風を「弱い」という。風速二十五メートル以上三十三メートル未満を「並」の強さ、「風速三十三メートル以上四十四メートル未満を「強い」風速四十四メートル以上五十四メートル未満を「非常に強い」風速五十四メートル以上を「猛烈な」という。逆にこれは範囲は関係ない。(図)

図、台風の強さ

階級	最大風速
弱い	17m/s(34ノット)以上~25m/s(48ノット)未満
並の強さ	25m/s(48ノット)以上~33m/s(64ノット)未満
強い	33m/s(64ノット)以上~44m/s(85ノット)未満
非常に強い	44m/s(85ノット)以上~54m/s(105ノット)未満
猛烈な	54m/s(105ノット)以上

間の長雨をもたらした。小型の台風が急に発達して猛烈な台風になった昨年の例もあるから油断は禁物だ。

また、台風がいよいよ近づいて来たとき、一番気をつけなければならぬのは、テレビ・ラジオの台風情報で何時のものかということである。「時発表台風情報では、室戸岬を北東に向かって毎時六十kmで進んでいます」といった場合、室戸・徳島間は約二百kmとして、今の時間との差が一時間ある。マニラの台風情報は即刻といいながら一時間ぐらいいは遅れる。また、台風は上陸後に速度が加わることを考えるとその台風はもう当山の頭の上にいると思つて間違いない。その折り青空が見えたら、台風が目が通過中、風向き反対側から吹いてくる。だから、基礎知識をもつてより早い対応が必要である。

### ブータン紀行最終回

旅行後、早一年になるうとする。今もパロ空港に着くや頬を撫でるカラツとしたさわやかで心地よい風が忘れられない。ネパールのカトマンズに着くと今日午前中に雨期が終わったという日であった。日本の梅雨あけのようにブータンのかぎりなく青い空、緑で覆われた山々。概ねのある旅であった。連載も一年となった。今回をもって、ネパールに移したくブータンを総括する。

ブータンの道路事情は当山の道をおいおこせばよい。違うのは道路舗装仕様だけ、向こうは簡易舗装。カーブ、斜度ともによく似ている。車は簡単には買えないので渋滞などあり得

ない。前に述べたように一日の滞在費を払っておくと団体、個人にかかわらず車が用意される。前に紹介した金沢の小谷さんは一人旅行だった。一人に車一台と運転手、ガイドつき、ホテルを含め、一日一人だと二百四十ドル(団体は二百ドル)は高いか安いかはこちらの判断基準による。なお、ガイドは公認資格を持っており、歴史、地理、英語などの難しい試験に合格している。日本語ガイドはだんだん増えているというが、英語とチャンポンで会話するつもりぐらいが良い。彼等は平均年齢が若く積極的なので日本語を教えるつもりで接する。例えばお寺でブリーズ、ドネーションというので「お賽銭をお願いし

ます」と教えると次からそういい、後からあれでよいかと聞いて来る。「朝の勤行」等も難しいものも教え

小谷さんの手紙をお借りすると「前略」今回の旅は宗教的な興味で出かけたのではありませんが、現地のガイド達の寺院での立ち振る舞いを見て、ある種の感動を覚えまして。その一方で、自分も仏教徒なのだととはとても彼等の前で見えないと恐縮してしまいました。そして、このような言い方は宗教に対して失礼かも知れませんが、政治や人々の生活を規定する拠り所が仏教に置かれている社会を目にしたことで、日本人の宗教観を含めて仏教というものに一層の関心が高まりました」小谷さんの手

### 一冊の本

## 「日本語練習帳」大野晋 岩波新書

最近のベストセラーになった本である。小学校以来、私は国語が嫌いである。故にこの種の本を読みかけても完読した試しがない。その私が数時間で読んでしまった。

単語許容範囲からはじまり、八と方の用法、文章の手始め、骨格、敬語という順序で構成され、我々が今使っている言葉をよくの練習問題を解いていく方法が用いられている。学校文法と違った見方なので新鮮で、楽しく読める。

文章を練習するには先ず千四百字ほどの新聞社説を四百字に縮約することからはじめ、さらに二百字に要約すると

いうトレーニングが良いという。意味は違うが、私も一頁時代の「朝念暮念」で最後の行の句読点で終わりというのを苦労していたので、そのやり方が十分理解できた。二頁になって少々たるんでいるが。

敬語は普通ハウ・ツー者が多い中、著者は人間関係を重視しその中で尊敬する場合と侮蔑する場合の人間関係を主ののべ詳細は自ずから言葉の使い方がかわるという方法で説明している。この方法だと自分との関係で言葉を作り立たせるから自分の敬語となる。世界には多少に差があれ、敬語は存在するという。

紙に感動し、かつ、共感を得た。風景とともに今もつて印象に残るのは人々の親しみやすさにある。先号のようにに民家に訪問。子供たちと交流ができる。お祭の踊りの練習の輪の中に入る等々言葉は通じなくとも友好がはかれる楽しさがあつた。チベット仏教を扱った所とした人々の生活規範をもっている故と想像する。実は江戸時代の日本人もこのような生活ではなかったか。それを明治以降、西洋合理主義のもと無駄なものは、迷信として一切排除してきた。気がついてみると末節の無駄なもののみならず、根幹まで失ってしまったのではないだろうか。

その大きな一例が先の号でかいた「自他平等」ともに生きる」考えである。私自身、日本での仏教による生活規範はいかにというテーマを煩悶しているところである。これからの私の人生でブータンは大きい位置を占めることと思う。

### 丹精三内附 禪

当山参拝の途中にたくさんの密畑がある。

昔は梅雨あけの半夏生の日に大手の密問屋と当山の農家が話し合い、一本の値段を決めていた。それが徳島市内の市場価格となった。

今もなおその傾向である。それはたくさんの生産地ができて自生すること、密の需要は一時にかたまりることが多い、そこは昔

から生産しているから十分対応できることによるものだろう。

昔々、ぼろぼろ衣を身にまとい疲れ果てた僧侶が当山にやってきた。村人は丁重にもてなした。やがて体力を回復して旅にでていった。去り際、密とお茶の種をお礼とした。

村人は大切に育てた。今では密、茶ともに自生し、山仕事にでるものはやかんのみもつて出てお茶の葉を持たない。後々、誰言うとなしにそれが若き日の弘法大師空海であったとの言い伝えとなった。

### 余録

六月には記録に残すべきことがあつた。

六月十三日、角元博信氏と節子嬢の仏前結婚式を当山本堂で行った。お寺さん以外の結婚式は久しぶり、実は新婦の節子さんは阿南市宝田町蜜庵院住職野信戒師の長女。師は名前の通り戒のつく一門、長男、良戒師の得度式、四度加行の阿闍梨をさせてもらい、続いて結婚式もなった。珍しい結婚式に節子さんの東京の友人もバスで駆けつけた。

六月二十七日は岩野宮子(僧名、真伽)さんの得度式、今春高野山で得度した姉弟子の青木時子(僧名、慈海)さんをはじめ、関係者が証明師となつて厳かに行われた。二人の弟子からは得度を記念し、諸堂の内側の五色幕を奉納していただいた。

諸堂の役行者像の錫杖と下駄が壊れていた山口靖弘氏が修復してくださつた。

# 8/15

# お盆供養会

## 当山でのご先祖様のお盆供養